

十勝ならではの スマホ(無線メディア)の 使い方を創造する

1980年代のニューメディアブームの中で、北の大地・十勝地方から新聞社系CATV局の元祖となる帯広シティーケーブル(本社:帯広市/丸山芳明取締役社長/OCTV)がサービスを開始したのが1985年8月1日だ。2015年8月1日で30周年を迎える。トリプルプレイに加えて地域WiMAXなど地味ながら、着実に地域密着サービスの実績を積み上げてきた。このたび、OCTVはフジクラ方式のスマホ・サービスを開始した。久しぶりにOCTVを訪問し(OCスマホ)サービスの現状を聞いた。また、フジクラの担当者にサービスの状況についても簡単な報告をしていただいた。(構成+写真:天野昭)



勝毎グループの牙城

求められていた 使いやすいスマホ

OCTVの経営母体は十勝毎日新聞社(勝毎)だ。北海道で絶大なる力をもっているのは北海道新聞(ドーシン)というブロック紙だ。しかし、ど

の地域にもローカル紙というのがある。夕刊紙である十勝毎日新聞は帯広を中心とする十勝地方ではドーシンに負けてはいない。負けない理由の一つが強烈な映像メディアであるCATV(OCTV)の存在があるからだ。OCTVのサービスエリアは、帯広市、音更

町、本別町で対象世帯は8万1000世帯。30年のOCTVの実績としては総接続世帯数は2万8000世帯(35.45%)である。普及率が低いではないかと思われるかも知れないが、何しろサービスエリアは想像できないほど広大だ。だから何事もジックリと腰を据えてやらなければならない。

帯広市役所前には「やっぱり十勝はフードバレー」の旗がたっている。

「やっぱり十勝はフードバレー」のスローガンで世界に打って出る(帯広市役所)

